

## 企業会計基準委員会の最近の活動状況

(2009年8月4日(第7回基準諮問会議)以降の動き)

### 1. 委員会の活動状況

「我が国における国際会計基準の取扱いに関する意見書(中間報告)」(本年6月、企業会計審議会公表、以下「中間報告」という)において国際財務報告基準のアドプションを視野に入れつつ、会計基準のコンバージェンスの継続・加速化が提言されている中、市場関係者による具体的な対応が開始している。当委員会においても対応に注力しており、第7回基準諮問会議以降取り組んだ主な事項は次のとおりである。

#### (1) プロジェクト計画表の更新

当委員会は、9月2日、2011年までの会計基準開発スケジュールを内容とするプロジェクト計画表(参考資料1-1)の更新を公表した。

更新したプロジェクト計画表は、「中間報告」を踏まえ、また、国際会計基準審議会(IASB)が、本年8月に公表した2011年半ばまでのワーク・プラン<sup>1</sup>も考慮して取りまとめている。

更新前のプロジェクト計画表と異なり、更新後のプロジェクト計画表は、IASBと米国財務会計基準審議会(FASB)とのMOUに関連する項目、すなわち、現在IASB/FASBで検討が進められている項目が多くなっており、今後、IASB/FASBの検討動向を注視しながら会計基準等の開発を進めることとなる。

#### (2) 委員会運営の改善

委員会の運営につき、審議の効率化・活性化を図るため、9月より「ディスカッション・ポイントの明確化」、10月より「意思確認」及び「エデュケーション・セッション」を導入し、実施している。

具体的には、委員会審議の効率化・活性化を図るため、委員会当日に審議する「ディスカッション・ポイント」を明確化し、これを中心に審議を行うこととしている。

また、専門委員会での審議の効率化・活性化を図り、委員会が専門委員会の審議を主導するためにあらかじめ委員会として基本的な方向性を出しておいた方が良いもの及び専門委員会で大きく意見が分かれている事項等を対象として、暫定合意のための「意思確認」の手続きを導入した。

さらに、委員会における審議項目及びディスカッション・ポイントの理解の促進を図り、また「意思確認」の実施に資するための非公開の「エデュケーション・セッション」を、原則として委員会開催日に開催することとした。

<sup>1</sup> 11月6日、IASBは、一部ワーク・プランの修正を行い、更新している(参考資料1-2)。

### (3) IFRS実務対応グループの設置

今後、日本企業がIFRSを任意適用するに際して、日本固有の会計事象に関する解釈問題が生じることが予想されるが、9月のIASBとの共同会議でこの課題を議論し、IASBが当該課題の対応窓口を設けることが確認された。

IASB及び国際財務報告解釈指針委員会(IFRIC)とのやり取りは、当委員会が中心になって行うこととなるが、関係者との意見交換及び論点の洗出しを行うために、当委員会メンバーと、財務諸表作成者及び監査人から成る「IFRS実務対応グループ」を設置した(10/15、第187回委員会で報告)。

### (4) IASBの円卓会議等へのサポート

#### ① 金融商品(分類・測定)に関する円卓会議

IASBは、「金融商品」に関する円卓会議をロンドン、ノーウオーク及び東京で開催したが、東京での開催については、9月3日に当委員会にて行われた。今回でコーディネーターとしてのIASB円卓会議への関与は、2008年12月の円卓会議以降、3回目である。

なお、円卓会議終了後、金融商品会計を巡る議論について相互理解を深めるため、円卓会議出席のため来日していたFASBボードメンバー Marc A. Siegel氏と当委員会関係者との意見交換を行った。

#### ② 今後の円卓会議等の予定

今後も引き続き、IASBの活動へのサポートを予定しており、11月26日には、「収益認識」に関する実務上の問題を調査するためのワーク・ショップを、11月27日には、「公正価値」に関する円卓会議を開催し、いずれも参加メンバーへの働きかけ等、当委員会をサポートを行う。

## 2. 会計基準等の開発状況

### (1) 公表物

当委員会は、専門委員会における審議を踏まえ、第7回基準諮問会議以降、以下の論点整理を公表した。

論点整理	公表日
「公正価値測定及びその開示に関する論点の整理」	2009年8月7日
我が国の会計基準等で定められた公正価値測定の考え方及び開示のあり方についての整理・検討を行うに際しての「公正価値の概念」、「その測定方法」及び「開示」の各論点を示す。	
「引当金に関する論点の整理」	2009年9月8日
我が国の会計基準には、体系的な引当金に係る会計基準はなく、これを開発するために、「定義と範囲」、「認識要件(蓋然性要件)」、「測定」及び「開示」といった考えられる各論点を示す。	

論 点 整 理	公 表 日
「収益認識に関する論点の整理」	2009年9月8日
<p>IASB/FASBで収益認識に関する会計基準の検討が進められている中、我が国で収益認識に関する会計基準を整備する際に考えられる「収益認識の考え方」、「収益の測定」、「収益認識の単位」、「収益認識の時期」等の各論点を示す。</p> <p>また、工事進行基準等、現行の我が国の会計処理に及ぼす影響についても示す。</p>	

## (2) 開発中の主なテーマ

各専門委員会において、現在、検討中の主なテーマは、以下のとおりである。

開発中の主なテーマ	専門委員会	今後の予定
金融商品の現行基準の見直しと公正価値測定についての検討	金融商品専門委員会	<p>現行基準の見直しについては、論点整理に対するコメント（7/29 締切）を受け、2010年第4四半期中の公開草案公表を目途に検討</p> <p>並行してIASBの公開草案に対するコメント対応を行う</p> <p>公正価値測定については、論点整理に対するコメント（10/5 締切）を受け、2010年第1四半期中の公開草案公表を目途に検討</p> <p>実務対応報告第26号（保有目的区分の変更）の見直しを行い、2009年12月中の公開草案公表を予定</p>
収益認識の体系的な会計基準等の整備	収益認識専門委員会	<p>論点整理に対するコメント（11/9 締切）を受け、2011年中の公開草案公表を目途に検討</p> <p>並行してIASBの公開草案に対するコメント対応を行う</p>
引当金の体系的な会計基準等の整備 ※	引当金専門委員会	<p>論点整理に対するコメント（11/9 締切）を受け、2011年第3四半期中の公開草案公表を目途に検討</p>

開発中の主なテーマ	専門委員会	今後の予定
会計方針の変更や表示方法の変更が行われた場合等の財務諸表の遡及処理に関する取扱いの検討	過年度遡及修正専門委員会	2009年11月26日開催の委員会での公表議決を予定
連結における特別目的会社の取扱いの検討 ※	特別目的会社専門委員会	論点整理へのコメント（4/13 締切）を受け、2010年第1四半期中の公開草案公表を目途に検討
無形資産の体系的な会計基準の整備	無形資産専門委員会	2009年12月中の論点整理公表を予定
退職給付の現行基準の全般的な見直し <sup>2</sup> に向けた会計基準等の検討 ※	退職給付専門委員会	論点整理へのコメント（4/6 締切）を受け、2010年第1四半期中のステップ1に係る公開草案公表を目途に検討  並行してIASBの公開草案に対するコメント対応を行う
財務諸表の表示に係る包括利益の取扱い等、今後のあり方（非継続事業※を含む）の検討	財務諸表表示専門委員会	論点整理へのコメント（9/7 締切）を受け、2009年12月中の公開草案公表を目途に検討  並行してIASBの公開草案に対するコメント対応を行う
国際的な会計基準との既存の差異に関する検討（ステップ2）	企業結合専門委員会	論点整理へのコメント（9/7 締切）を受け、2010年第2四半期中の公開草案公表を目途に検討
IASBで検討中の「リース」へのコメント対応等 ※	リース会計専門委員会	当分の間、IASBの動向を見ながら対応を検討
金融商品及び不動産の消滅認識（認識の中止）に関する取扱いの検討 ※	特別目的会社専門委員会	2010年第1四半期中の論点整理公表を目途に検討

<sup>2</sup> ステップ1とステップ2に分けて検討を実施。

ステップ1では、退職給付債務及び勤務費用の期間帰属や、未認識項目の貸借対照表へのオンバランス化、開示の拡充を検討し、ステップ2では、IASBでの検討の動向を踏まえて対応を検討する。

開発中の主なテーマ	専門委員会	今後の予定
1 株当たり利益についての国内基準の整備	1 株当たり利益専門委員会	IASB での検討が中断しているため、IASB での検討開始を待ち、当委員会での検討を再開する予定

※ 印の項目については、11月6日に公表されたIASBのワーク・プランの改訂を受け、今後、当委員会においても検討スケジュールを見直す可能性がある。

また、これらの項目以外の「今後の予定」についても、今後のIASBの検討の動向により、変更される可能性がある。

### 3. 国際的な会計基準の整備への貢献に関する活動

#### (1) 国際会議

##### ① IASBとの共同会議

会計基準のコンバージェンスを加速することを目的とするIASBとの第10回会合が、9月7日及び8日にロンドンで開催された。

IASBからIASB/FASBのMOUプロジェクトの進捗状況の説明が行われ、当委員会からは、コンバージェンスへの取組みが順調に進んでいることの説明を行った。

また、企業会計審議会の「中間報告」を踏まえた当委員会の取組みについての説明を行うとともに、IFRSを任意適用していく上での実務上の課題についての議論を行った。

この議論を受け、IASBからは、IFRS任意適用に向けての基準解釈問題に対して支援を行う旨の確認を得た(1.(3)参照)。

このほか会議では、下記項目を含むIASBのプロジェクトにおける論点についての横断的な意見交換を行った。

- その他包括利益とリサイクリング
- 負債の測定(自己の信用リスクを含む)
- 金融商品

第11回会合は2010年4月に東京で開催される予定である。

##### ② NSS会議/WSS会議

NSS会議が9月8日及び9日にフランクフルトにて開催され、加藤委員他が出席した。当委員会は、無形資産のセッションにおいて、無形資産専門委員会が実施した「社内発生開発費のIFRSのもとにおける開示の実態調査」を示し、基準の意図どおりに有用な情報提供がなされているのか問いかけを行い、基準運用レベルを国際的に引き上げていくことの重要性を訴えた。

また、WSS会議が9月10日及び11日にロンドンにて開催され、西川委員長他が出席した。金融危機へのIASBの対応を中心に検討が行われ、IASBのワーク・プランや最近の問題意識に関する説明、プロジェクトのアップデート報告が行われた。

##### ③ FASBとの定期協議

会計基準のグローバル・コンバージェンスを議論するFASBとの第8回会合が、10月19日及び20日にノーウォークで開催された。

今回の会合では、当委員会から企業会計審議会の「中間報告」を踏まえた当委員会の取組みについての説明を行い、FASBからは、FASBとIASBのMOUプロジェクトの進捗説明を受けた。

このほか、下記の項目についての意見交換を行った。

- その他包括利益とリサイクリング
- 負債の測定（自己の信用リスクを含む）
- 金融商品
- リース会計

第9回会合は、2010年5月に東京で開催される予定である。

#### ④ 基準諮問会議（SAC会議）

第25回SAC会議が、11月12日及び13日の両日にわたり、ロンドンで開催され、SACメンバーである金子誠一 日本証券アナリスト協会理事及び米家正三 伊藤忠商事(株)常勤監査役とオブザーバーとして金融庁より園田課長補佐が出席し、当委員会から研究員1名が同席した。

今回の議題は下記のとおりである。

- IASBの活動報告
- 金融商品
- IASBワーク・プランの優先順位
- 開示（金融商品の複雑性の低減）

#### ⑤ AOSSG会議

11月4日及び5日、マレーシア・クアラルンプールにて、世界におけるアジア・オセアニア地域の発言力強化の一環として、第1回アジア・オセアニア基準設定主体グループ（AOSSG）会議が開催され、当委員会を含め、21の国と地域の会計基準設定主体、デービッド・トゥイーディーIASB議長他、4名のIASBボードメンバー及び島崎憲明IASCF評議委員が参加した。

今回は、AOSSGの運営方針について合意し、MOUを締結した。また、「収益認識」、「金融商品」、「公正価値測定」及び「財務諸表表示」がテーマとして取り上げられ、当委員会は、収益認識に関するワーキング・グループのリーダーを担当した。

第2回会議は、2010年、日本での開催を予定している（開催時期については、未定）。

#### ⑥ 日中韓3カ国会議

11月5日、マレーシア・クアラルンプールにて、日中韓3カ国会議が開催された。今回の3カ国会議は、AOSSG閉会後に開催され、今後の3カ国会議のあり方について意見交換が行われた。

次回の会議は、2010年、日本での開催を予定している（開催時期については、未定）。

### （2）その他

#### IASBへのコメントの提出

当委員会は、IASBに対して、以下のコメントを提出した。

- ・ ディスカッション・ペーパー「負債の測定における信用リスク」に対するコメント（2009年9月1日）

- ・ IAS 第 32 号「金融商品：表示」の修正の公開草案：「株主割当で発行された新株予約権の分類」に対するコメント（2009年9月7日）
- ・ 公開草案「金融商品：分類及び測定」に対するコメント（2009年9月14日）
- ・ 公開草案「公正価値測定」に対するコメント（2009年9月25日）

また、これらのコメントとは別に、西川委員長より、財務諸表表示に関するレター（IASB 及び FASB では、包括利益計算書を 1 計算書方式のみとする方向で検討が進められており、これに対する意見を求められたことに対するコメント）をデービット・トゥイーディーIASB 議長に送っている。

#### 4. その他

##### 2009 年度 IFRS Bound Volume 日本語版の出版作業について

当委員会では、IFRS の翻訳作業を行っており、2009 年 12 月には、2009 年度 IFRS Bound Volume 日本語版（Bound Volume 日本語版）の発行を予定している。今回の翻訳の対象となった IFRS は、2009 年 1 月 1 日現在のものを対象としている。

なお、Bound Volume 日本語版については、当分の間、毎年の作成を予定している。

以 上